

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年5月23日(2013.5.23)

【公表番号】特表2011-528050(P2011-528050A)

【公表日】平成23年11月10日(2011.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-045

【出願番号】特願2011-517851(P2011-517851)

【国際特許分類】

C 08 F 6/00 (2006.01)

【F I】

C 08 F 6/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年4月2日(2013.4.2)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

- a ) 少なくとも1のエチレン性不飽和の、酸基を有するモノマー、
- b ) 少なくとも1の架橋剤、
- c ) 少なくとも1の開始剤、
- d ) 場合により1もしくは複数の、a )に記載したモノマーと共に重合可能なエチレン性不飽和モノマー、および
- e ) 場合により1もしくは複数の水溶性ポリマー

を含有するモノマー溶液またはモノマー懸濁液の重合により、吸水性ポリマー粒子を製造する方法であって、以下の工程：

- i ) モノマー溶液またはモノマー懸濁液を重合してポリマーゲルを得る工程、
- i i ) ポリマーゲルを乾燥させる工程、
- i i i ) 乾燥させたポリマーゲルを粉碎する工程、および
- i v ) 分級し、その際、篩下粒子を分離する工程

を有し、この場合、分離した篩下粒子は、少なくとも部分的に工程i i )の前に返送される吸水性ポリマー粒子の製造方法において、吸水性ポリマー粒子を工程i v )の前に、表面後架橋させ、返送される篩下粒子の少なくとも一部の量が、少なくとも1の還元剤により、または還元剤および無機粒子により被覆されており、還元剤が、次亜リン酸の塩またはスルフィン酸の塩であることを特徴とする、吸水性ポリマー粒子の製造方法。

【請求項2】

工程i i i )の後かつ表面後架橋の前に、さらに分級し、篩下粒子を分離することを特徴とする、請求項1記載の方法。

【請求項3】

表面後架橋の前に分離した篩下粒子を、工程i v )で分離した篩下粒子と一緒に返送することを特徴とする、請求項2記載の方法。

【請求項4】

還元剤により、または還元剤および無機粒子により被覆されている、返送される篩下粒子のうち、モノマー溶液またはモノマー懸濁液の固体含有率に対して、1~20質量%の量を、工程i v )の前に被覆することを特徴とする、請求項1から3までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 5】**

還元剤により、または還元剤および無機粒子により被覆されている、返送される篩下粒子のうち、モノマー溶液またはモノマー懸濁液の固体含有率に対して、1～20質量%の量を、表面後架橋の後に被覆することを特徴とする、請求項1から4までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 6】**

分離した篩下粒子を工程i)の後に返送することを特徴とする、請求項1から5までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 7】**

還元剤により被覆される篩下粒子が、篩下粒子に対して0.01～5質量%の還元剤により被覆されていることを特徴とする、請求項1から6までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 8】**

無機粒子により被覆される篩下粒子が、篩下粒子に対して0.05～2質量%の無機粒子により被覆されていることを特徴とする、請求項1から7までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 9】**

無機粒子が、熱分解法ケイ酸であるか、または磷酸の水不溶性の塩であることを特徴とする、請求項1から8までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 10】**

モノマーa)が、部分的に中和されたアクリル酸であることを特徴とする、請求項1から9までのいずれか1項記載の方法。

**【請求項 11】**

吸水性ポリマー粒子が、少なくとも15g/gの遠心分離保持容量を有することを特徴とする、請求項1から10までのいずれか1項記載の方法。

**【誤訳訂正2】**

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0103

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0103】

30分の反応時間の後で、ポリマーゲルを取り出し、穿孔板(穿孔の直径6mm)を有する押出機で粉碎し、亜硫酸水素ナトリウムの1質量%水溶液17.6gを噴霧し、かつ2回押し出した。

**【誤訳訂正3】**

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0109

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0109】

30分の反応時間の後で、ポリマーゲルを取り出し、穿孔板(穿孔の直径6mm)を有する押出機で粉碎し、亜硫酸水素ナトリウムの1質量%水溶液17.6gを噴霧し、かつ改めて押し出した。引き続き例1からの篩下粒子を合計で84g、2回に分けて180μmの篩およびスプーンを用いて振りかけ、かつ3回押し出した。